

## 平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- (1) 自他共に大切にす豊かな心を育てる。 (2) 確かな学力を身につけさせる (3) 良い生活習慣を身につけさせる
- 心身ともに健康な生徒を育てる。

### 学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	<b>3</b>	<b>3</b>
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の実施と年度当初に年間授業時数を明示し意識付けを図り計画性が増した。</li> <li>・阪神道徳研究会のみならず校内での公開授業を活性化するとともに授業改善アドバイザー等を積極的に利用し授業研究が進んだ。</li> <li>・校内研究授業等でICTを取り入れた授業を積極的に行っている。</li> <li>・水曜放課後、土曜、テスト前チャレンジを実施し中間層等の底上げ。</li> <li>・家庭での学習時間増加に向けて、宿題点検等の指導強化を図り、PTA役員会を含め保護者に便りや機会あるごとに家庭学習の充実を啓発する。</li> <li>・数学、英語で少人数指導やTT授業により、生徒が存在感、充実感のある授業実践を心がける。</li> <li>・特別支援委員会やケース会議で情報交換等を行い、職員会議等で全教職員の共通理解を図っているため生徒理解が進んだ。</li> <li>・小中で道徳や教科授業の相互参観、出前授業や夏季合同職員研修、小6</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より一層の計画的実施のため意識改革を図る必要がある。</li> <li>・授業公開やICT授業研究が進んでいるが、若手を中心にミドルやベテランに広がらない。</li> <li>・担任を通じて参加を呼びかけるが、テスト前学習以外は水曜放課後、土曜学習等の補習に参加する生徒が少ない。</li> <li>・少人数授業を実施しているが、点数向上の成果がない。又、次年度への検証が不足している。</li> <li>・小中連携は進んできたが、より一層の進化へは教育課程上の時間と教員のゆとり不足である。</li> </ul>	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神道徳研究会に向けて道徳授業の創意工夫が出来て意識が高まった。</li> <li>・年2回の教育相談を計画的に行い問題行動等の未然防止に役立っている。</li> <li>・生徒指導委員会、不登校委員会等の会議の統合を行うことにより生徒と関わる時間を増やす。又、情報を電子化して共通理解を図る。</li> <li>・長期、7日連続欠席者については、不登校担当やSC等との連携をいっそう深める。</li> <li>・キャリア教育の年間計画を作成するとともに「進路ノート」の活用などを計画的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳についての教員の意識を継続する必要がある。</li> <li>・教育相談時や日々のSCの利用促進がまだまだ不足している。</li> <li>・生徒指導や不登校の情報を電子化するが教員の習慣化が未成熟。</li> <li>・キャリア教育についての共通理解がまだ不足している。</li> </ul>	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月職員会議で食育推進通知や食育全体計画、市の施策等を提示し説明することにより、職員への意識付けを図る。</li> <li>・弁当事業実施について、教職員の共通理解を図る。又、給食実施に向けての情報を公開して教員の意識付けを図った。</li> <li>・教科体育の充実と体育的學校行事を全教員で取り組む。</li> <li>・保健だよりを学活等で利用する。</li> <li>・スポーツテスト結果を生徒にカード等で還元し活用する。</li> <li>・クラブ通信発行や外部指導者の活用によりクラブ活動をより一層活性化させたため所属感が増した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育への関心は、養護教諭と家庭科教員以外にはなかなか浸透しないため研修が必要。</li> <li>・保健だよりの発行が活発になってきたが担任により活用度の差が大きい。</li> <li>・クラブ数は増加し、クラブ員も増加して活躍の場が増えたが顧問異動の関係で継続性が課題。</li> <li>・スポーツテストを學校行事に位置づけて実施することが教員全体で生徒の体力向上意識に繋がる。</li> </ul>		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導は、正門前だけでなく周辺まで行うため地域からの苦情が減少。</li> <li>・月末の安全点検実施により、危険箇所の把握を確実にを行うため事故の減少。</li> <li>・朝礼や集会、学活での安全指導を行うので生徒が理解し易い。</li> <li>・年2回の防災訓練実施の際、事前事後指導を充実することや関係機関との連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検後の修理や修繕で校務員等が出来ない場合の処置、修理に時間がかかる。</li> <li>・安全指導に関しては、講話形式が多いので実感がないようである。</li> <li>・関係機関と協力すべき學校行事では、日程調整が難しい。</li> <li>・通学区拡大に向けて通学路の危険箇所の整備が出来ていない。</li> </ul>		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委での研修計画を立案することで意識が高まった。</li> <li>・ICT使用でより一層業務改善をする。</li> <li>・各種研修会、研究会参加奨励をすることで研修意識を高める。</li> <li>・教育雑誌や教育施策に関する情報等を文書で職員に通知することで既成概念や改革意識を高める。</li> <li>・若手教員の増加により、若手教員校内研修計画を実施することで若手登用に備える。</li> <li>・個別面談を年間2回以上行うことで意識改革を図る。</li> <li>・教育活動の公開や学級、学年、学校、クラブ便りの発行、ホームページ更新、PTAメール配信を更に活発にしたのでより保護者との連携が出来た。</li> <li>・学校評価を職員へ通知し、学校運営の一助とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修、研究は若手教員中心となっており、一部ベテラン教員の自己研鑽が不足している。</li> <li>・個々のICT使用は普及してきたが、校務ファイルの整理が出来ていない。</li> <li>・個別面談で、ベテラン教員等の運営参画意識を向上させようとするが、前向きなアイデアがでない。又、若手登用を図ろうとするが若手にその意欲や意識がない。</li> <li>・便りやHP更新は昨年度以上に活発だが、継続していくのが課題。</li> <li>・地域の人材活用には、人材不足、窓口機能の出来る教員及び教員の意識改革が必要。</li> </ul>		

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
・朝礼等の機会を通じて、職員や生徒に具体的目標の意識付けを図る。 ・学校、学年たよりや保護者会など機会あるごとに教育目標、目指す生徒像を示したため問題行動が減少した。 ・指導の充実には、振り返りと改善が必要である。常に、指導後の改善策を考慮するように啓発する。(前例踏襲より新しいアイデアを奨励する)	・ミドルリーダーの不足や若手教員の意欲意識不足により新しい動きに繋がらない。 ・学年、学校たよりの発行の継続が課題。	

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
・研究推進委員会を軸に、共通理解や方策を検討し発表するので意識は高まった。 ・自ら学ぶ意欲を持たせるために分かりやすい授業や指導法の工夫をテーマに授業実践し、校内で公開授業を行ったため意識が高まった。 ・道徳についての授業研究を行ったため組織的な道徳授業が出来るようになった。	・研究、研修は若手教員に偏り、ベテランの率先垂範が不足している。 ・研究を推進する強力なミドルリーダーがいない。若手登用にしても経験不足が否めない。	

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策	